

昭和村統合小中学校推進協議会

ともに学び、ともに育つ学び舎づくり

▶ 問合せ 教育委員会学校教育係 ☎ 24-5120



「昭和村統合小中学校推進協議会」では、小中一貫教育が望まれる背景や理由、そして小中一貫教育の意義、さらに小中一貫教育における学校制度について「義務教育学校」と「併設型の小学校・中学校」の特徴を理解するための検討を行い、どちらが村の教育に適しているのか協議しています。

小中一貫教育が望まれる背景

これからの子どもたちが身につけるべき力は、発達段階に沿って、計画的・系統的に積み上げないと身につけることが難しい力であることから、小中一貫教育が望まれるようになっていきます。また、小学校から中学校へ進学する際、円滑な接続が不十分なことから生じるとされる様々な問題の改善や、発達段階の早期化に対応した教育の充実の視点からも、小中一貫教育の推進が望まれるようになっていきます。

1 身につけるべき力の計画的・系統的な指導効果

◆自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す力=自律した学習者の力

2 進学・新環境における学習面や生活上の不応改善

◆不慣れな教科担任制、生徒指導の内容・方法の違い、上級生との人間関係の難しさなど、いわゆる「中1ギャップ」の改善効果

3 発達段階の早期化に対応した教育の充実

◆児童・生徒の心身の発達・成長の早期化が見られ、従来であれば中学校段階の特質が小学校段階で見られる傾向への対応

このように、現代的な課題への対策として小中一貫教育の推進が有効に作用すると考えています。

小中一貫教育を進める学校の形態

「義務教育学校」と「併設型小中一貫校」の違い

義務教育学校

小学校過程から中学校過程までの9年間の義務教育を一貫して行う学校。従来の6-3制度に縛られず、小中が一体となった1つの教職員組織(1人の校長)となっています。発達段階に沿って前期・中期・後期などゆるやかなまとまりを生かした、効率的な学習が期待できます。

▶ 1つの学校、1人の校長、1つの教職員組織

▶ 就学年限9年



●●学園など

併設型小中一貫校

同じ設置者(教育委員会)が、小学校と中学校を併設して小中一貫教育を行う学校。小学校と中学校の枠組みを残しつつ、小中一貫教育に取り組む運営形態、形式上は小学校と中学校は別組織(小学校長1人、中学校長1人)です。

▶ 2つの学校、2人の校長、2つの教職員組織

▶ 小中学校の枠組みは残しつつ、一貫教育を行う

